

4 活動の様子



エルゴメーターを体験



選手の生き方を学んだ授業



会食をして、親しみも倍増



乗車体験（選手と鬼ごっこ）



学習発表会で発表



慎重な手つきで操作



「公平とは何か」を考えました



全校生徒で記念写真



ボッチャを体験

5 子供たちの声



増淵選手の「大変な時こそ大きく変わるチャンス」という言葉を励みにしていきたいです。

吾妻小学校 4年

車いすバスケットボールは、思っていたより難しかったです。選手は、障がいを感じさせないほどすごかったです。

吾妻小学校 5年

選手の皆さんのお話を聞いて、つらいことがあってもバスケットボールを続けていこうと思いました。

葛生南小学校 6年

ボート競技は、一人一人の力より団結力が大事だと分かりました。これから人と何かをする時は、団結して行動したいです。

西中学校 1年

車いすバスケットボールを体験して、大変さの中にも楽しさがあることを学びました。パラリンピックを初めて身近に感じました。

西中学校 2年

障がいのある人と障がいのない人が共生できる社会にするにはどうすればよいか、みんなで考えていかなければならないと思いました。

常盤中学校 3年

〈推進校〉 日光明峰高等学校

目標： 学校の教育活動全体を通してオリンピック・パラリンピック教育を推進し、スポーツの価値への理解を深め、フェアプレイ意識の涵養、国際・異文化理解などの資質・能力を養い、国際的な視野を持って、世界の平和に向けて貢献できる人材を育成する。

1 主な取組内容

○各教科等における取組

- ☆ 1 学年 体育（体育理論）
 - ・オリンピック・パラリンピックの歴史、オリンピックズム
- ☆ 1 学年 コミュニケーション英語 I
 - ・オリンピックの歴史、意義
- ☆ 1 学年 総合的な探究の時間
 - ・SDGs を取り入れ、地域と国際的な課題を知り、その課題の解決を見出すことや、個人が果たす役割について考えた。
- ☆ 2 学年 グローバルコミュニケーションコース（英語会話）
 - ・国際交流、フィールドワーク
- ☆ 2 学年 日光学
 - ・地域理解フィールドワーク、国際交流学習
- ☆ 1・2 学年 総合的な学習・探究の時間
 - ・日光市内外の外国人や海外生活経験者による講義と実習
- ☆ 3 学年 スポーツ健康コース（スポーツ概論）
 - ・オリンピックの歴史、ドーピングとスポーツ、障害者スポーツ
- ☆ 3 学年 人文国際コース（異文化理解）
 - ・国際交流、フィールドワーク



1 学年体育(体育理論)の授業風景



フィールドワークの様子



総合的な学習、コミ I の授業風景

○各行事等における取組

- ☆ オリンピック・パラリンピック教育講演会（金子宗弘氏：陸上十種競技）
 - ・「夢に向かって」をテーマに、講演をいただいた。講演会の振り返りを感想用紙にまとめた。
- ☆ 福祉施設訪問 福祉委員・希望生徒
- ☆ 福祉施設との交流 合唱部



金子氏による講演会

2 成果

- ・ 年間を通して、授業の中にオリンピック・パラリンピックに関する情報を取り入れたたり、映像やスライドなどの ICT を活用したりすることで、オリンピック・パラリンピックへの機運の醸成を図ることができた。
- ・ 外国人観光客との国際交流学習や日光市内外の外国人や海外生活経験者による講義を通して、国際社会や地域への理解を深めるとともに、その一員としての自覚を育み、国際社会や地域社会に参画する力を育んだ。
- ・ 講演会では、陸上十種競技に真摯に取り組んだ講師の経験談から、自らの競技に対する姿勢や、今後の進路について改めて見つめ直す有意義な時間となった。質疑応答では、生徒が積極的に質問をしており、講演会への高い興味・関心が見られた。さらに、事後アンケートでは、オリンピック・パラリンピックへの興味・関心が高まったという意見や、ボランティア活動・国際交流活動に対しても意欲的な意見が見られた。
- ・ 福祉施設訪問では、障害者への理解を深めるとともに、自己肯定感や自己有用感を得ることができた。また、交流活動では、様々な世代の方々と交流することでコミュニケーション力を身につけた。

3 課題

- ・ 事前事後の学習と他教科、領域を関連づけ、計画的に実施していく必要がある。
- ・ 教育講演会の講師選定の段階から時間を要した。

〈推進校〉 高根沢高等学校

- 目標： ・ 学校の教育活動全般にわたりオリンピック・パラリンピック教育を推進し、スポーツ倫理について考えを深めることをとおしてスポーツをフェアにおこなう姿勢を養い、スポーツの意義や素晴らしさを理解させる。
- ・ スポーツの背景にある様々な文化や、多様な価値観を理解することにより、グローバルな視野をもって社会に貢献できる人材を育成する。

1 主な取組内容

○各教科等における取組

☆ 体育

- ・ 東京オリンピック・パラリンピックの競技などについて学んだ。

☆ 家庭総合・家庭基礎

- ・ 見えにくいめがねや身体に重りなどを付け歩行するなどの高齢者・障害者体験。
- ・ 車いすを利用し、車いす目線などの体験。

☆ 地理・音楽・家庭総合・家庭基礎

- ・ 世界の料理や国歌、民族衣装などを知り、地理的・歴史的要因等による世界各国の文化を理解する。

○各行事における取組

☆ 体育祭・マラソン大会

- ・ 協働の精神の自覚をもって体育祭等の運営を行い、他者を応援し、自らも力を出し切ることができた。

☆ パラリンピアンによる講演

- ・ ロンドンパラリンピック車いすバスケットボール日本代表増渕倫巳氏を招き、事故による人生への絶望、車いすバスケットボールとの出会いを「あきらめない心」と題し、生徒達に語りかけていただいた。

☆ 車いすバスケットボール体験

- ・ 栃木レイカーズの三村龍選手、大森亜紀子選手、間下裕基選手、有田一也選手を講師に、競技用の車いすバスケットボール体験教室を実施した。最後には、車いすバスケットボールのゲームを行うこともできた。

☆ オリンピアンによる講演

- ・ ロンドン・リオデジャネイロオリンピック陸上女子やり投げ日本代表の海老原有希氏を招き、目標や夢をもつことや自分を支えてくれる方々がいることを忘れない等、「夢をつかむまで」と題し、力強い講演をいただいた。

○地域における取組

☆ 地域の老人会「和老会」との交流

- ・ 地域の老人会の「和老会」との交流会を生徒会・家庭クラブ・吹奏楽部を中心に実施した。



増渕氏による講演会



事前学習の様子



海老原氏による講演会

2 成果

- ・ オリンピック・パラリンピックに関する知識や出場選手の体験や関連エピソードなどを学び、スポーツの楽しさやドーピングに関する知識を深めることで、フェアプレーの精神を学ぶことができた。また、オリンピックが文化や国、民族、宗教の違いを越えて互いを理解し合い、友好を深めるツールになっていること、パラリンピックが障がい者への理解を促し、共生社会の創出に貢献していることを理解した。
- ・ オリンピアン・パラリンピアン競技者の話を直接聞くことにより、スポーツ全般への興味・関心が大きく高まった。
- ・ パラリンピックの競技を体験することで、障害者や障害者スポーツに対する理解を深めるとともに、ボランティア精神が養われ、共生社会へ踏み出す一歩となった。

3 課題

- ・ 限られた授業日数、授業時間の中で、保健体育科以外の教科に活動を広げることは難しかった。
- ・ 事前指導において、各ホームルームにて正副担任による講義を実施したが、講義教材をしっかりと準備し、クラス毎での内容の差異がないようにする。

推進委員会

第1回推進委員会
令和元(2019)年6月11日(火)
場所：栃木県庁北別館
・事業概要説明
・実践自治体、実践校における
実施計画についての検討・協議

第2回推進委員会
令和2(2020)年2月17日(月)
場所：栃木県総合教育センター
・実践した内容や方法等の検証及び、改善策
等の検討・協議
・実践、成果を普及する方法等の検討・協議

本事業を推進するために、栃木県オリンピック・パラリンピック教育推進事業推進委員会を年に2回開催した。

○推進委員

- ◇宇都宮大学教育学部教授（委員長）
- ◇日光明峰高等学校教頭
- ◇高根沢高等学校教頭
- ◇益子町教育委員会学校教育課係長
- ◇栃木市教育委員会副主幹兼指導主事
- ◇那須塩原市教育委員会副主幹・指導主事
- ◇佐野市教育委員会指導主事
- ◇芳賀教育事務所副主幹
- ◇下都賀教育事務所副主幹
- ◇那須教育事務所指導主事
- ◇安足教育事務所学校支援課長
- ◇栃木県総合政策部総合政策課主査
- ◇栃木県教育委員会事務局総務課副主幹
- ◇栃木県教育委員会事務局スポーツ振興課副主幹
- ◇事務局
栃木県教育委員会事務局高校教育課
栃木県教育委員会事務局義務教育課

セミナー



令和元(2019)年7月11日(木)
場所：栃木県庁北別館
・実践発表「令和元年度の取組について」
（栃木市、那須塩原市）
・講話：「パラリンピック教育を通じて伝えられること」 I'mPOSSIBLE 事務局
・班別協議

学校全体の取組として、オリンピック・パラリンピック教育を効果的に進めていくためには、どのようにしたらよいか協議しました。

ワークショップ



令和2(2020)年2月17日(月)
場所：栃木県総合教育センター
・実践発表「2019年度の取組について」
（益子町、佐野市、高根沢高等学校）
・中核拠点におけるオリンピック・パラリンピック・ムーブメント教育の実践事例
・班別協議

今年度の成果と課題を共有し、来年度、どのように取り組んでいくことが効果的な活動になるか協議しました。

主な成果と課題

今年度実施した本事業では、次のような成果や課題が挙げられました。県教育委員会としては、今回の成果等について県内に広く周知するとともに、関係機関や有識者等との連携を図り、オリンピック・パラリンピック教育の充実に努めていきます。

◇成果

- ・ 昨年度より実施自治体や推進校が増え、オリンピック・パラリンピック教育への理解が深まるとともに、各学校の実態や地域の特性に合わせた特色ある実践が見られるようになった。
- ・ 地域セミナーや、地域ワークショップの開催により、実践事例の共有を図ることができ、各学校の取組の手掛かりとすることができた。

◇課題

- ・ 開催年度を迎えたことから、オリンピック・パラリンピックへの興味・関心を更に高めていくとともに、オリンピック・パラリンピック教育が継続した取組となるよう、これまでの実践事例を広く周知し、各市町教育委員会と連携しながら推進していく必要がある。